

令和3年7月教育委員会定例会議 議事録

開会日時 令和3年7月20日（火） 午後3時
閉会日時 令和3年7月20日（火） 午後3時27分

場 所 岡崎市役所東庁舎2階大会議室

出席者 教育長 安藤 直哉
教育委員 上原 三十三 小出 義信 福應 謙一

欠席者 教育委員 岡田 京子

説明のため出席した職員

河合教育部長 山本教育監 宮本教育政策課長 二村教育部次長兼施設課長
太田学校指導課長 小田教育相談センター所長 福澤教育部次長兼社会教育課長
田中教育政策課副課長

議事録指定職員

伊豫田教育政策課総務政策係係長 尾崎教育政策課主査

日程

日程第1 その他

- (1) 岡崎市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
- (2) 岡崎市西部学校給食センター事業者選定審査委員会委員の委嘱について
- (3) 岡崎市文化財保存活用地域計画について

日程第2 第10号議案

教科用図書採択地区について

日程第3 第11号議案

教科用図書の採択について

(議題等及び議事の要旨)

■日程第1 その他

- (1) 岡崎市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

教育政策課長 議案書等により説明

安藤教育長 質疑を許可

(質疑なし)

(2) 岡崎市西部学校給食センター事業者選定審査委員会委員の委嘱について

教育政策課長 議案書等により説明
安藤教育長 質疑を許可
(質疑なし)

(3) 岡崎市文化財保存活用地域計画について

社会教育課長 議案書等により説明
安藤教育長 質疑を許可
(質疑なし)

■日程第2 第10号議案

教科用図書採択地区について

(秘密会)

■日程第3 第11号議案

教科用図書の採択について

(秘密会)

安藤教育長 第11号議案については、上原委員が地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第6項の規定に該当し、この審議に参加することができないため退室を求める。

(上原委員退室)

学校指導課長 議案書等により説明

安藤教育長 質疑を許可

(質疑なし)

安藤教育長 中学校社会科歴史の教科書について協議に入り、教育委員の意見を求める。

小出委員 提出された資料に目を通して、まず一番気になったこととして、なぜ歴史を学ぶか、という冒頭の部分である。歴史を知ることとは、各時代に生きた人々が何を考えどんな状況の中で何をして、それが長年積み重なって現代に繋がっているということであるが、今の時代を生きている子どもたちが歴史を学ぶ意味は、おそらく過去から今までの社会の在り方、人間の生き方というものがなぜ起こったか、どのような効果を生み出したかを評価し把握して、そのような事実を踏まえて、今後自分たちが生きていく中で、学んだことを利用してより良い社会をつくる判断力を培っていくということが大切である、と考えている。そういう意味では、東京書籍の冒頭部分の表記はとても良い。つまり、今までを評価して、それを使って今後の自分たちの社

会をどのように作っていくかということに繋がるような表現をしている。一方、自由社は、まず、過去の歴史と絡めて「ご先祖様」という言葉で過去を表している。もちろんご先祖様という言葉が悪いとまでは言わないが、過去から今までの長い繋がりで成り立っている社会を表現するには適切ではないと考える。子どもたちに「ご先祖様」と言ったときに何をイメージするかというと、おじいちゃんひいおじいちゃんくらいまでのことではないかと思う。中学生であればしっかりと判断し評価する力があると思うので、ご先祖様という表現はズレていると感じるのではないか。また、自由社の教科書に添付されている資料や写真は、歴史という視点からみてどれだけ重みのあるものということで判断すると、あまりにも小さいところに使われているなどして、違うように思うため、お勧めしない。

福應委員

社会科の教科書というと、中学校では、地理・歴史・公民の3分野で成り立っており、地理と歴史は並行して学習していくものである。その点から考えると、地理・歴史・公民が揃っていることが非常に重要である。東京書籍は3つ揃っており、一方、自由社は歴史と公民に限られている。東京書籍では、例えば福澤諭吉や伊藤博文という人物が出てきたときに、何県の出身かということも表記されている。このように地理で学んだことが歴史にも反映され繋がっている。この繋がりというものを大事にしたいと考える。また、昨今の探求学習において、子どもたちが自分で問題意識を持って学んでいく、そうした姿勢から見ると大きな違いが出てくる。東京書籍の教科書では各章の全体像が見開きで書かれている。各章でどのようなことを学び、どのような課題意識を持って進めていくかということが一目瞭然に分かるようになっている。一方、自由社においては全体像でというと追及課題を絞りにくいと思う。従って、子どもたちが全体像を見ながら探求課題を設定しやすく、それを補助する探究プロセスもあり、主体的に学ぶ姿勢ができる東京書籍の教科書を推薦したいと思う。

小出委員

自由社の教科書は、記載してある過去の事実を淡々と述べるのではなく、かなり色々な形容詞と副詞が付いた上で表現しているが、東京書籍はそれが少ない。形容詞・副詞が多いということは、恣意的な意図が入っている可能性がある。子どもたちにはまず事実を知ってもらって、その事実を基にいろいろと考えてもらうようにしたほうが良いと考える。

安藤教育長

中学校社会科歴史教科用図書について、西三河教科用図書採択地区協議会が選定した教科書案のとおり採択することについて採決（挙手を求める）。

挙手（全員）

原案のとおり可決することを宣言

安藤教育長	令和4年度使用教科用図書について、中学校社会科歴史以外の採択について、事務局の説明を求める。
学校指導課長	議案書等により説明
安藤教育長	質疑を許可 (質疑なし)
安藤教育長	中学校社会科歴史以外の教科用図書について、西三河教科用図書採択地区協議会が選定した教科書案のとおり採択することについて採決(挙手を求める)。 挙手(全員) 原案のとおり協議会が選定した東京書籍を採択することを宣言
安藤教育長	第11号議案の審議が終了したため、上原委員の入室を許可する。 (上原委員入室)
安藤教育長	上原委員へ第11号議案について、原案のとおり可決したことを報告。

岡崎市教育委員会会議規則第14条第2項の規定により、ここに署名する。

令和3年8月19日

教育委員会教育長 安藤 直哉

教育長職務代理者 上原 三十三